

石クリ通信

9月号

「頑張る」「無理をする」「我慢する」

看護師 太田 小百合

頑張ることが何かの結果や成果に繋がるか繋がらないかは度外視で、とにかく身を粉にして働いたり勉強したりすることとが、「頑張ること」になってしまっている気がします。結果や成果が全てとよく言いますが、それでも心や体を壊すだけで一向に状況が改善されなかったり、幸せになれないのであれば、「それは「徒労」と言えるのではないのでしょうか。「頑張ること」とは結果や成果に現れたり、あるいはそこに楽しみや意味を見い出せることであって、「無理をすること」ではないはず。私も、頑張る、頑張れ、頑張ってくださいという言葉をよく使います。何気なく使ってしまう便利な言葉ですが、今後はよく考え使っていくように思います。

花火好きの原点

看護師 澤田 彰子

先日ひたひたなかの花火を見に行きました。花火を見ていて気づいたのですが、私の花火好きはここからはじまっているかもしれません。ひたひたなかの花火は打ち上げ場所から観覧席までが近く、心臓まで響くくらい迫力があり、子どもの頃から見ていた私はすっかり虜になってしまいました。今回は市制二五周年という事もあり、花火にも気合いが入っていて、新作花火やスターマインが見応えがありました。余談ですが、ひたひたなか市のイメーজソング「素敵な明日のために」は、今は亡き本田美奈子さんが歌っていて、祭りにはいつも流れていてつい口ずさみたくなる曲なので、一度聴いてみてください。

お盆休み

事務 田所 弓佳

去年も参戦したひたひたなかの音楽フェスに今年もまた参戦してきました！今年は最近流行っている手持ちの扇風機も準備し暑さ対策は十分な状態で参戦しました。観たいアーティストがずつと続いていたので楽しく過ごすことができました。しかし一つだけ残念なことがありました。それは午前中にかいた汗が冷えたのと夕方から強く冷たい風が吹いていて寒くなり、寒さに耐えられず最後のアーティストを見ずに途中で帰ってきてしまったことです。夏で涼しい格好で行っていたのですがそれが裏目に出てしまい一瞬で冷えてしまいました。来年は暑さ対策と寒さ対策もしっかり準備していきたいと思いました。

夏の恒例

事務 上野 亜希

今年の五日間あったお盆休みは、遠くに出かける事もなく幕を閉じました。唯一のイベント事と言えば、毎年友人宅で開催されるバーベキューで、今年も招待され、楽しい時間を過ごしてきました。毎年五、六家族が集まり、かなり盛大に行われます。今年は台風にあつたが、幸い始まる頃には雨も上がり、流しうめん、スイカ割り、花火と、盛り沢山な内容でした。各家庭の県外に再会している子供たちも夏休みで帰省してきて、久々の再会に話が弾み、母たちは子供たちの成長した姿を肴に、お酒が進みました。それ以外の出来事と言えれば親戚まわりをしたくらいで、どこに出かけた訳でもないのに、なぜかあつという間に過ぎ去った五日間のお休みでした。

バッハの音楽

院長 石川 悟

音楽の父と呼ばれるヨハン・セバスチャン・バッハは小学校の音楽室に肖像画が貼ってあって、名前がよく知っていました。音楽そのものに衝撃を受けたのは、高校生の時です。ステレオを買ってもらって、ベートーヴェンやシューベルトなどの管弦楽曲ばかりを聴いていた頃、友人からこれいいよ、とバッハの「ブランデンブルク協奏曲」全曲のレコードを借りました。レコードに針を落とすと、それまで聴いていたものとは全く違ったすがすがしい音が流れて、感激したのを昨日のことのように覚えています。

その後無伴奏チェロ組曲、無伴奏ヴァイオリン・ソナタを知りました。最初聴いた時は、地味で、白黒の水墨画を見るような思いでしたが、だんだん良さがわかって、今では色々な演奏家の録音を聴き比べています。

思い出深い曲の一つは、「ゴールドベルク変奏曲」。松本の楽器屋のおばさんが、後輩の楽器を買いに行った時におまけにくれたグレン・グールドのレコードです。その頃まだそれほど知られていなかったグールドの個性的な演奏に魅せられ、友人達が下宿に来ると必ず聴かせる一曲になりました。

バッハの音楽は「対位法」で書かれ、ゴシック建築のようにしっかりと構成されています。きれいなメロディーが耳に快い、という感じではありませんが、何度聴いても飽きがこない素晴らしい音楽だと思っています。

信州旅行

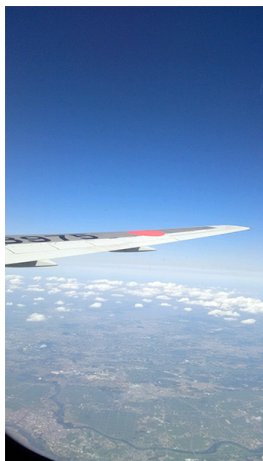
事務長 石川 都

昨年に続き今年のお盆休みも、早めにお盆様迎えの準備をした後は、留守宅を娘たち若者世代に任せて、私たちシニア世代は信州に出かけた。信州でも軽井沢は、今や北関東道を通れば三時間弱で着くので、お盆の帰省ラッシュにそれほど巻き込まれずに済む。また今の軽井沢はプリンス系のモールやアウトレットがあり、天気が悪くても楽しめる場所が多々ある。軽井沢と言えど私たちが世代には文学だが、文学少女の私が追分通いをした半世紀前とは今や別天地、軽井沢はプリンス系、中軽井沢は星野リゾート系、南の塩沢湖周辺は美術館などアート系、と訪れるところが事欠かない。私たちは今回ゴルフをメインに、シヨッピンングや美術館めぐりをした。さすがに信州の高原で、気温も二十五度前後と涼しく、とても過ごしやすかった。ただ町中の道路は一日中大渋滞で全く動かず、脇道や裏道を動くほかなかった。今年は軽井沢の女子トーナメントに全英優勝の渋野日向子も出場するため、例年にもまして人は多かつたようである。それでも合間をぬって一人訪れた軽井沢高原文庫では、ちょうど精神科医で作家の加賀乙彦展をやっており、常設の四季派の本などもまた増えている。落葉松林のテラスで眺めていると、いつしか半世紀前の青春時代に戻っていた。ただ今回は台風で天気が悪く、大好きな浅間山がほとんど見えなかったのが唯一心残りだった。

北海道好き

看護助手

柴田 さち子



六月に先生達の学会に同行させてもらい、私達三名は観光しました。北海道は今回で四回目です。今回を含め三回は飛行機で、あと一回は大洗港から出る船、サンフラワー号で行きました。

大洗港から苦小牧港へ行くのですが、大洗出発は午後六時過ぎ、苦小牧港へは翌日の午後一時頃に到着し、所要時間約一九時間です。船内には大部屋、個室、特別室、さらにレストラン、ゲームセンター、お風呂、サウナがあり、お風呂はブルくらいの大きさがありとても驚きました。私達は個室を借り、部屋にはベッド、テレビ、テーブルが設置されていました。この時の船旅も楽しかった。今回も北海道の地に足を踏み入れると、気分は最高でした。色々な場所に観光に行き、色々な食べ物も美味しく頂きました。何度行っても北海道はいいです。「北海道はでっかいぞー！」機会があったらまた北海道に行きたいです。